

周囲の景色がどんどん変わってゆく。PC コースを何度か訪れると、時代の流れを感じる。昔の痕跡は PC 地図にしっかり刻まれている。

中部台公園」コース  
三重県 No.18 JOA 公認 No.772  
7km 11 ポスト

## 待ちに待ったコース

西は奈良県に、東は伊勢湾に接し、三重県を分割するように東西に広がる松阪市。誰もが知っている「松阪牛」の産地です。よく「まつさかぎゅう」と読まれがちですが、正しくは「まつさかうし」。昭和初期にはすでに全国に名を馳せるブランドに成長していたようです。

牛の話はさておき、松阪市にパーマネットコースが誕生したのは昭和47年のこと。松阪駅の1つ南にある徳和駅をスタート地点とするコースでした。その後、宅地化などの影響で存続困難となり、平成9年、真西に位置する「中部台運動公園」周辺に移設して、再スタートを切っています。

しかし、新装からしばらくは造成の影響で2つのポストが設置されない状態が続いていました。私は完成が待ちきれず、大阪赴任中の2000年1月に踏破。その後、ようやく全ポスト完備されたとの情報をいただき、今回再訪することとしました。松阪駅前バスターミナルから11,12,13番系統に乗り「中部中学校前」で降りると10分程でスタート地点の「中部台運動公園管理事務所」前に到着します。この日の私は、もう1つ「北勢」コースも回る予定であったために時間短縮を図り、タクシーを利用しました。

## 行き届いた管理

事務所を訪ねると、さすがに管理が行き届いているようすでくに対応してくれます。外の案内板にもマスターマップが掲示されていますが、事務所にも控えが用意してあります。パーマネットコース管理の模範ですね。地図はこのほか「みえ・こどもの城」と「松阪ハイツ」でも扱っています。余談ですが、ここに設置してある案内板は、

旧「松阪」コースで使用していたもので、目を凝らすとうっすら名残が確認できます。

コースは、スタート地点周辺の公園内にはやや起伏があるものの、大半は山裾の平坦地をめぐるやさしい設定になっています。前回から6年が経過していますが、周りの風景は記憶にはつきりと残っていて、未踏破のコースを歩くときのようなワクワク感はちょっと少なめです。

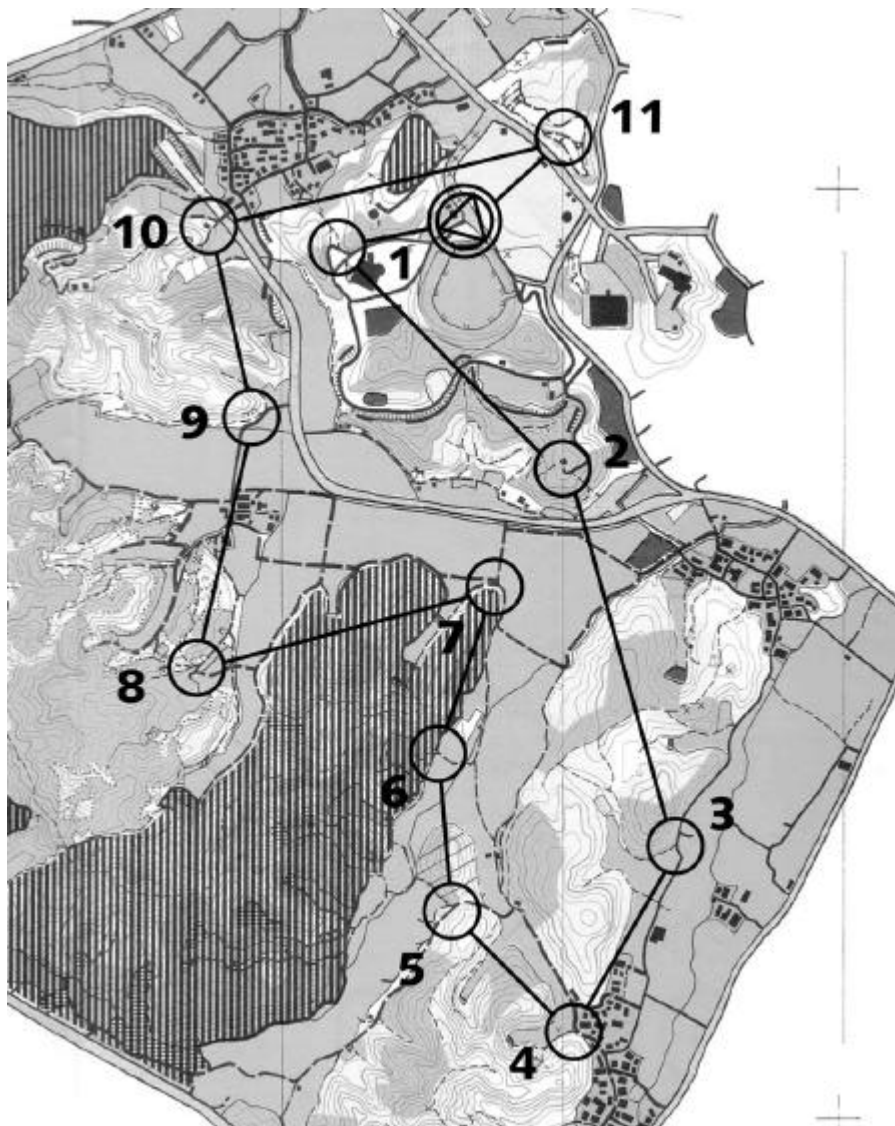
## 山麓を巡るコース

野球場前から西に向かい、ドーム型をした「みえ・こどもの城」の脇を抜けると小道の入口に第1ポストが以前と変わらず立っています。開設からは8年余り経過しているにもかかわらず、

汚れひとつない状態を維持しています。



みえ・こどもの城



緩やかに下りつつ舗装道路を歩いてゆくと、小さな池が見えてきます。なんとその名は「底なし沼」。こんなべたな名前を付けるからにはそれなりの縁があるのでしょうか。穏やかな景色に不似合いな名称を気にしつつも歩を進めると分岐に到達。ここから南へ向かうルートは、このコースで数少ない上り坂です。上りきると天文台が姿を現し、同時にポストも目に飛び込んできます。子供を対象にしたイベントがあるときは賑わうようですが、このときは人の気配もなくひっそりとしていました。



天文台前にある第二ポスト

黄色い手すりのついた階段をくだり、駐車場から主要道路と集落を経由して山の東側に沿った道を南下します。農期前の耕作地を見ながら青空の下、すがすがしい気分です歩いていくと、道が山裾から離れる地点で第3ポストが確認できます。記号の色落ちがいつも課題となるFRPのポストですが、ここはしっかりと補修されています。

そのまま舗装された道路を進み、住宅地の中の突き当りを右に入ります。砂利道となったルートをわずかに歩くと第4ポストは目の前です。カーブミラーの後ろのやや高い位置から利用者の訪れを待っています。

## 有るはずの山が無い

テンボ良く第5ポストへ。山間を抜け、ここは道なりに進むだけ。ポストの手前に来てみると、驚いたことに、あるはずの山が消え失せすっきり見渡せるようになっていました。そんなせいもあり、第5ポストに到達する前に、新たに設置された第6は遠目に確認で

きてしまいます。ある地点からは2つのポストが同時に見えるという珍現象が生じています。

道端の第5ポストから一旦出戻りをして、新道を西に向かいます。地図上では立入禁止区域と表記されているエリアに沿って、道路が整備されています。前は未舗装でしたが、今はしっかりと舗装されています。既に視認していたポストには難なく到達。新設ポストながら、以前からそこにあるかのような顔をして立っています。

次の第7ポストも新しく設置されたもの。道路を北に向かい、西側に回りこむと伐採された木の枝に埋もれるようにして佇んでいます。この2つのポストの設置が遅れた原因となった大造成は既に終わり、日本初の国産材コンビナート「ウッドピア松阪」として平成13年に操業が始まっています。前回訪れたときの、工事用車両が縦横に走り回っていた喧騒が嘘のように静まり返ってはいましたが、木材の総合流通加工基地として、木材産業の構造改革を担っているのだそうです。OLのルートからは「すまい体験館」の大きな看板が確認できます。

その後もしばらくこの敷地沿いの道を歩き、西に広がる山を目指します。とは言え、山に登るわけではなく、ここも裾野どまり。分岐からわずかに入ったところに第8ポストは設置されています。

この先は通る人もないようで、草深いルートとなります。短い距離ですから、わざわざ迂回する必要はありません。視野が開けて北に向かうと、至るところで山が削られ、土崖が露わになった姿が見られます。第9ポストのあるすぐ横でも掘削が進み、広大な空き地が生まれています。このときも橙と黄色のショベルカーがあり、造成途中であることを物語っていました。ポストそのものは以前と変わらず立っていますが、周囲の変貌ぶりには驚くばかりです。ちなみに、このポスト、記号が通常のものよりやや上部に記されています。

道路を北に向かい、程なくすると神社が見えてきます。コンクリートの鳥居が印象的なそこは「松尾神社」といい、境内には第10ポストが設置されています。西の山を上り詰めた山頂にある建物も同じ「松尾神社」です。



松尾神社が静かに出迎えてくれる。

最終ポストは公園内に戻りフィールドサーキット場の石段を上り詰めます。フィールドサーキット、耳慣れない言葉ですが、簡単なフィールドアスレチックのようなものです。丘の上にあるポストは極めて鮮明で、すぐに確認できるでしょう。坂を下り、銀色に輝くドームに向かって広々とした芝生を横切ると、間もなくゴールです。

このあと、近くに静態保存されているC58というSLを見学。「くろすけ」という愛称が付けられているように、とても親しまれた機関車であることが伝わってきます。昭和46年まで活躍し、「松阪公園」に保存されていたものを、平成3年になってこの地に移設したそうです。

帰りはバスを利用して松阪駅に向かうこととして「中部中学校前」停留所まで歩きました。

ゆっくり歩いても2時間足らずで一回りできる手軽なコースです。家族連れでのんびりと休日的一天を楽しみませんか。

(2006年3月24日踏破)

(大高竜亮)